

9月22日 晴れ。

彼と同棲をはじめて、一か月が経った。

お互い毎日忙しいけれど、おおむね順調で、幸せな生活。

このまま、ず〜っとそれが続くと思ってた。

だけど、最近隣の部屋のアレ……

「セックス」の音が気になってしまって。

彼との性生活に別に不満があるわけじゃないんだけど……

一体、どんな人があんなに激しいセックスをしているのか、

考えただけでヘンな気持ちになっている自分がいて……

とうとうこの前、その人にはじめて会った。

お部屋のドアの前で、ばったり。

思ったとおりの、野蛮そうで、チャラくて、悪そうな人だった。

こんな人には、関わっちゃいけないって、頭では一瞬で理解したはずなのに……

あの時私は、きっと、どうかしていたんだと思う。

気が付いたら私は、彼の巧みな誘いに乗せられて……

彼に、身体を許してしまった。

その人のアレは、悪いけど、彼氏のモノとは比べ物にならなくて……

セックスの内容も、聞こえてきた声以上に激しくて、男らしくて……

私ははじめて会った人とのセックスで、「中」でイクことを覚えてしまった。

頭がまっしろになって、身体がふわ～～ってなって、痙攣が収まらなくて……

それは、今までの彼とのセックスでは一度も味わえなかったはじめての感覚で……

気が付いたら彼が帰ってくる直前まで、私はその人とのセックスに耽っていた。

絶対に彼には言えない、とんでもない秘密ができてしまった。

私、このまま……どうなっちゃうんだろう。

9月27日 曇り

最近、彼は仕事に出ている間、バイトをサボって隣人と毎日のように昼間から

セックスをしている。

あの人のアレは、何度射精しても萎えないばかりか、回数を増すごとにさらに狂暴さを増してきている気がする。

毎日、あっけなく何度もイカされて、マーキングでもするかのように中出しされて、モノのように……まるで、オナホール？のように身体を扱われている。

そして、私が背徳的なセックスにハマっていくのを見透かすように、

あの人の要求と欲望は、どんどんエスカレートしてる気がする。

昨日なんて、あんなに固くて長くて太いモノ…あの人の狂暴なおちんちんを、喉元まで無理やり突っ込まれて、おまんこ代わりにずぼずぼされて、大量の濃い精子を飲まされた。

最悪なはずなのに……ノドにへばりつく精子の味と、そんな変態的な行為にさえ、なぜか私の身体は、いやらしい反応をしてしまって……

おまんこが疼いてしまって……結局その日は、そのあと5回も中出ししてもらった。

私の身体、きっと、どんどんおかしくなってる……

彼のことは今でももちろん大好きだけど……あの人とのセックスを、やめようとは思えない。

最近、そんな自分が怖い……

あの人との関係は、もう終わりにしようと思っている。

さすがに彼に対する罪悪感と、おかしくなっていく自分の身体と心に、もう耐えられそうにない。

でも、あの人はそんな私のお願いに対して、余裕そうな笑みを浮かべながらとある「提案」を持ちかけてきた。

それは…彼とのセックスの誘惑に…いやらしい肉欲に私が勝てるかどうかの、賭けだった。

もし負けたら、私は……明日、お尻の穴の「はじめて」さえ、あの人に奪われてしまう。

しかも彼も……私と「あの人」の関係に、薄々気付いてるような気がする。

せっかく始めた幸せな同棲生活が、こんなことになるなんて……

もう、いっそ何もかも打ち明けてしまえばいいのかな…？